

1. 科目名 (単位数)	心理学統計法／心理統計法 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP1141
2. 授業担当教員	成本 忠正			
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「統計学」の単位を履修していること。			
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>			
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	毎回の授業および演習内容についての予習と、自宅での復習が必須となるため、本シラバスの事前学習・事後学習の内容を熟読して臨むこと。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 岸学著『SPSS によるやさしい統計学 (改訂版)』オーム社。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準： ①研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができるか ②データに合った解析法を選択できるか ③選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができるか ④解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができるか</p> <p>○評定の方法： 受講態度、演習への取り組み、期末レポートから総合的に評価する。 授業への参加・受講態度：30% 課題達成・レポート：40% 小テスト：30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「情報処理演習 I」に継続する内容ですので、しっかり復習してから臨んでください。なお、遠隔講義の場合や皆さんの理解度・達成度によっては講義内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、講義内またはオフィスアワーでの質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退等は減点の対象となります。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席してください。</p>			
13. オフィスアワー				
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	① オリエンテーション：受講契約 ② 本講義で何を学ぶのか	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。	
		事後学習	情報処理室の利用可能時間を調べ、大学所定の手続きに従ってコンピュータを操作する。	
第 2 回	心理学研究における量的変数・質的変数	事前学習	それぞれの概念について予習しておく。	
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第 3 回	心理学研究における尺度水準について	事前学習	比率・間隔・順序・名義というそれぞれの尺度について予習しておく。	
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第 4 回	心理学研究における記述統計 (代表値・分散など)	事前学習	代表値および分散 (標準偏差) について予習しておく。	
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第 5 回	心理学研究における記述統計 (標準化・偏差値など)	事前学習	データの変換 (標準化) をする理由について予習しておく。	
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第 6 回	心理学研究における記述統計 (量的 2 変数の関係性)	事前学習	相関分析 (ピアソンの積率相関係数) について予習しておく。	
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第 7 回	量的 2 変数の無相関検定 (推測統計)	事前学習	無相関検定を実施しなければならない理由について予習しておく。	
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。	
第 8 回	心理学研究における単回帰分析 (推測統計)	事前学習	単回帰分析の概念を予習しておく。	

		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する
第9回	確認テストの実施	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく。
		事後学習	回答できなかった箇所をしっかりと復習しておく。
第10回	心理学研究におけるカイ二乗検定（推測統計）	事前学習	クロス集計表の作成方法とカイ二乗検定について予習しておく。
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。
第11回	カイ二乗検定（差を分析する）推測統計	事前学習	質的2変数の因果関係をカイ二乗検定で知ることができる。その理由を予習しておく。
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。
第12回	心理学研究におけるt検定（対応あり）推測統計	事前学習	2条件間の差が意味あるものか否かを分析する方法である。実験について予習しておく。
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。
第13回	心理学研究におけるt検定（対応なし）推測統計	事前学習	2条件間の差が意味あるものか否かを分析する方法である。実験について予習しておく。
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。
第14回	心理学研究における分散分析（推測統計）	事前学習	3条件以上の場合には分散分析を用いる。その理由について予習しておく。
		事後学習	教科書・資料で十分に知識を補完する。
第15回	確認テストの実施	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく。
		事後学習	回答できなかった箇所をしっかりと復習しておく。